

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第7回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

① 自主的審議について

- 1) 前回実施したグループワークの結果報告
- 2) 今後の進め方について
- 3) 年間スケジュールの確認

3 開催日時

令和2年11月20日（金）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫
高橋清司（副会長）、立入真太郎、田中利夫、塚田春枝、樋口里美
日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席なし）
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・ 挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：立入委員

次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 自主的審議について」の「1) 前回実施したグループワークの結果報告」に入る。事務局に説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料1に基づき説明

【本間センター長】

- ・資料1について補足説明

【青木会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 自主的審議について」の「1) 前回実施したグループワークの結果報告」を終了する。

次に「2) 今後の進め方について」事務局に説明を求める。

【山崎主事】

- ・参考資料1・2に基づき説明

【青木会長】

資料1には、前回のグループワークで出された意見等が記載されている。今後は、各資料に記載されている項目の中から、どんなテーマを選べばよいのか、テーマの絞り込みに入っていくことになる。

参考資料2の「①将来こんな地域になってほしい・よいところや自慢」には、「景色がよい」「自然に恵まれている」等の高士地区のよいところがまとめられている。今後やらなければならないこととしては、高士地区のよいところを発信・アピールして行くことが大事だと思う。出た意見がすべてできるわけではないため、次の段階としては的を絞って、どのようなかたちで具体的に進めていくのかを考えていきたいと思っている。

では、今後の自主的審議の進め方について、どのように進めていきたいか意見を求

める。

【松山委員】

参考資料は前期の委員が資料を作成し、今期の委員に送ってくれたのだと思って見
ていた。

そのため、参考資料と前回の地域協議会で出た意見等で整合性をとり、任期の残り3
年の間でまとめていけばよいと思ったのだが、そういった理解でよいか。

【青木会長】

そうである。

【松山委員】

では、資料に記載されている項目の中から、取り掛かれるものを選び出せばよいと
いうことか。

【青木会長】

前回のグループ討議と前期までに検討してきた内容の中から、何を取り上げていく
のかを決めていきたいと思っている。

【松山委員】

では、残りの任期である3年の間に、どれをテーマとして話し合いを進めていくのか
を提案すればよいのか。

【青木会長】

そうである。

【山崎主事】

補足である。資料1は前回のグループ討議をまとめたものであり、その他、参考資料
を2枚配布している。参考資料1は、前期の委員が今期と同様に自主的審議のテーマを
決めていく際に出された意見の一覧になる。そして参考資料2については、平成29年に
地域協議会委員・町内会長・地域の方と行った「高士の未来づくり懇談会」の際の、
グループワークで出た意見をまとめたものである。

【松山委員】

同じものを資料2枚に分けてまとめたということではないのか。

【山崎主事】

そうではなく、参考資料1は、前期の委員だけで考えた意見である。この意見を地域
の方に提示し、一緒にグループワークをした時の結果をまとめたものが参考資料2にな

る。

【松山委員】

地域の方に参考資料1を見せて、一緒に話し合いを行ったということか。

【山崎主事】

そうである。

【松山委員】

参考資料についてだが、懇談会をした3・4年前と、現在のコロナ渦の時代では、環境や状況等が全く違う。先々を考えても状況が見えないため難しい。

前回、「人口減少」をどうするのかとの意見が出た。人口減少の中でも特に子どもの減少をどうしていくのかということである。参考資料には、空き家の話も出ているが、空き家に関しては行政でもかなり対応しているため、この懇談会当時から状況は大分変わってきていると思う。私たちが前回グループ討議で話していたこととしては、例えば人口減少に対して地区内でどうしていくかということである。

【青木会長】

前期までも、「人口減少対策」ということで高士に人を集められないか、出て行かないようにするためにはどうすればよいのかを考えていた。早い方法としては、「高士地区に住みたい」「高士はよいところ」ということで、まずは高士地区から出て行く人を防ぎたいと考えた。そして「よいところであれば、自分も高士地区に行きたい」と思ってもらえる方向に行けばよいと思った。まずは1つの取っ掛かりとして高士ルミネがある。

また、以前に地域協議会で子どもたちの意見を聞いた際に、「高士地区内には、例えば文房具を買いたくても買うところがない」との意見が出た。確かに、文房具等を購入できる店もなく、図書館も遠い。また、子どもたちが集まって遊ぶところもない。そういったことに対して、今年度はママさんたちが子どもたちのために支援事業に提案しており、それも1つの取っ掛かりである。

また、旧高士中学校跡地の旧高士スポーツ広場は高士地区にとっては結構価値のある財産だと思う。しかし、それが全然活かされていない。子どもたちも少なくなっているため、唯一の利用者である幼年野球がいつ途切れるのか分からない状況の中で、管理が難しくなっている。いつ駄目になるのかということが、大きな問題点としてあるため、これまでも何回も高士中学校跡地の再利用の話題が上がってきて

いる。例えば、若者や高齢者等の「人が集える場」となったらよいと思う。この辺りにはゲートボール場もなく、グラウンドゴルフができる場所もない。グラウンドゴルフは面白い競技だが、ゲートボールとは違い、結構広いスペースが必要である。そのため、高士中学校跡地程のスペースがあれば、よいものができるように思う。私的な話にはなるのだが、自分は高士中学校跡地方面の在住である。中学校跡地ではこの10日あまり木を伐採している。今日は天気もよかったため見に行ってみたら、すごくたくさん木が切られており、そこから見る景色は本当に素晴らしい景色だと思った。あの景色を放っておくことはもったいないと再認識した。

とりあえず、他にこんなことをやってはどうかとの意見を出してほしい。

【松山委員】

今年度は新型コロナウイルスの影響があったが、高士地区で行っている敬老会や運動会、春祭り・夏祭り等は長い歴史がある。1番歴史が長いものは、5月に開催していた高士小学校の運動会であり、100年以上の歴史がある。それらの歴史的な行事の中に「高士ルミネ」を含めることができれば、かなりのことができると思っている。ご承知のとおり運動会は昭和23年より中学校で行っていた。だが高士中学校が廃校となったため、高士小学校に会場を移動したのである。子どもが少なくなったため、子どもとやっているが、もともとは地区で行っていた大会である。そういうものが人口減少によりできなくなってしまった。そういうものはやめずに、今までやってきたものを継続していけたらよいと思う。また新しいものとして、例えば、若い人たちがメインで行っている「高士ルミネ」のようなイベント等を、具体的に増やしていければよいと思う。残念ながら、今では敬老会や運動会を知らない人が多くなってしまった。自分としては、今まで行ってきた行事やイベント等をやめるのではなく、改めていけばよいと思う。

そういったことを骨子とし、今回配布された資料も参考にしながら進めていければ、新しいことやらなくとも、今までと同じことをやっていけると思う。

【青木会長】

行事等を行っていく上で、やはり人手が足りなくなり、年齢構成も偏りが出てくると思う。例えば、敬老会の運営を中心となって行ってきた婦人会も人数が少なくなっている。いろいろな面で、もう少し限られた人材だけではなく、若い人等、年代構成をきちんと整えたかたちで進めていかなければ、継承していく上でだんだんと弱

点が出てくるようなことになってしまう。例えば、世代間交流の機会の創出、交流するにも場所がない等、そういった提案が毎回出されている。参考資料のような懇談会を開催しても、毎回同じ人が参加しているとの意見が出るため、何とかそれを改善しなければいけないという話がずっと出ていた。これは地域協議会としても、個人的にも非常に大きな問題ではないかと思っている。

【上野委員】

先ほど体育大会の話が出たが、これについては振興協議会長・婦人会長・老人会長・PTA会長・学校長と体育協会長が集まり、現段階での新型コロナウイルスの感染対策が難しいという苦渋の判断で今年度は中止とした。これは体育協会として、1番困ったことであった。そのあと、小学校独自の運動会を小規模で行ったが、平日であったため、保護者は見ることができなかった。そういったところも考慮し、この場で自分が言うのもなんだが、来年度については新型コロナウイルスの感染対策を実施し、保護者や若い人の要望を十分に取り入れて行えるようにしたいと思っている。体育協会長もそのように考えている。

もう1つ、体育協会では、新型コロナウイルスの感染対策を考えつつ、先日も高士小学校でニュースポーツの普及を行った。来年3月には、ニュースポーツの大会を地区で開催しようと考えている。「何もしない」ということではなく、先ほど松山委員の発言にもあったように、「できるような体制づくり」をしていくべきではないかと思っている。そのためには、若い世代の人の意見を十分に取り入れていければよいのではないかと思った。子どもたちが新型コロナウイルスに感染することは、保護者としては非常に心配であると思う。しかし、来年2月には高士ルミネを行う予定でいる。

今後、地域協議会でどのような方向に行けばよいのかを考えると、地域活動支援事業を若い世代に知ってもらおうというところをまずは打ち出していければよいと思っている。平成29年1月27日の懇談会でグループワークを行った時、自分も参加しており、「高士ルミネ」の話が出ていたことを覚えている。そのような方向づくりをしていったほうがよいと思っている。

【青木会長】

体育協会は、役員構成等、年齢に偏りはなかったか。

【上野委員】

若い人もいる。町内会から各1人ずつ入っている。

【青木会長】

そういったことが、うまくいっている団体である。

次に塚田委員の発言を求める。

【塚田委員】

申し訳ないのだが、自分には何のアイデアもなく、本当にどうしたらよいのか分からないということが本音である。

【青木会長】

資料も参考として、考えをまとめていただければよいと思う。

立入委員の発言を求める。

【立入委員】

申し訳ないのだが、前回の協議会を欠席してしまったため、前回の流れを分からずに発言する。

自分としては、いろいろなテーマがある中でどれを選んでもよいと思うのだが、個人的な考えで究極的なことを言えば、「少子化」が1番の問題であり、少子化が解決できればすべての悩みが解決できるのではないかと考えている。

そういった中で、高土地区が今後どうしていきたいのかという中で、「交流人口」を増やしていききたいのか、それとも「定住人口」を増やしていききたいのかといったことが、まだはっきりしていないように思う。最近で言うと、「交流人口」「定住人口」の他に、「関係人口」といったものもある。

要するに、結局は今期・前期共に地域協議会委員で解決できることであれば、すでにこの地区はよくなっていると思う。だが自分たちも素人であり、どうすればよいのか分からないと思う。もし機会があれば、成功しているようなモデルケースの人から1度話を聞いたり、そういった人を交えた上で若い世代の人たちと話を進めていかなければ、正直、なかなかうまくはいかないのではないかと考えている。

【青木会長】

自分は前期でも協議会委員をしていたため、事務局がまとめてくれた参考資料を見て「よくまとまっている」「こんなことをやった」という感じで分かった。しかし、初めて見た人は全ての内容を理解することは容易ではないと思う。先ほど塚田委員が発言した内容は、そのとおりだと思う。早急に行っても、なかなかうまくはいかないと思う。

本日の結論としてどうなるのかは分からないのだが、参考資料を見て、よいと思うものがあれば、1つずつにまとめて次回の協議会で発表してもらうことも、1つの手段のように思う。

【玄蕃委員】

自分も前回の協議会を欠席し、申し訳なかった。こういった活動もしているのだと知り、今、少し考えていた。

地域活動支援事業もそうだが、すべての事業が「点」だと思う。それぞれ別の事業である。それは「面」ではないため、いろいろな点同士が有機的にくっついていったらよいと思う。なかなかくっつかないものもあるが、点同士がお互いに少しずつ寄り添い合うと、実はもう少し、地域活動支援事業費も効果のある事業になるのではないかと思っていた。

体育大会・敬老会・地区の夏祭り・高士ルミネと四季に分けて4つの大きな事業があり、どれも大人から子どもまで参加する。自分たち婦人会とすれば、敬老会を行うと、休みであるにも関わらず、親御さんたちは中学の育成会議でボランティアに来てくれる。中学生の子どもたちも大変忙しい中、そして学校の先生も協力してくださり、高齢者にいろいろなものを見せてくれる。幼児も小学生も皆そうである。そうすると、若い世代も来るわけである。何というか、「子どもを巻き込む」というか、「子どもと一緒に」「子どもを育てる」時には必ず、そこに大人がついてくるわけである。そのため、この4つの核の事業は、使命感でやるというよりも、やはりどうせやるなら楽しくやるというか、参加する大人も子ども皆楽しくできるよう、この4つは外せないと思った。これをコロナ渦の中であっても工夫しながら進めていくために、婦人会としても協力できることは協力していかなければならないと思っている。

また、地区の安全安心が1番大事だと思っている。青年会はないが消防団はあるため、そういう組織と共に、今後、高齢者が圧倒的に増えた時に高齢者が豊かに生きていけるような地域社会にしたい。若い世代は、働いておりそれだけで精一杯だと思っている。だが、元気な高齢者はたくさんいる。振興協議会や婦人会等、それぞれがそれぞれで「ひとふさの会」等の事業を行っており、やはりそれも「点」だと思う。例えば、今後どのようにしていくのか、どこで誰が協力するか等、有機的に話し合いをしてもよいと思う。確か、婦人会もひとふさの会や振興協議会の話にも入っているのだが、全体として動くという感じとしては弱いような気がする。高士地区は人口も少ない。

それぞれの目的は違っても、組織はみんな一緒だと思うため、やはりそのように動いていかなければいけない時代が来ていると思う。とにかく若い人には働いてもらわなければならない。そして、子どもたちは安全に育たなければいけない。今、「誰が」「何を」できるのかというと、元気な高齢者ではないかと思っている。そういった方々も巻き込みながら高土地区を守っていき、だが、ただ守るだけではなく、やはり楽しくなければ駄目だと思う。そういうところを今後検討していったらどうかと思っている。

【青木会長】

確かにそうである。

【井澤委員】

何かを思いついたわけではないのだが、高土ルミネ等、今までやってきた伝統行事というものは、大事であり続けていかなければいけないことだと思う。だが、そういった大変な行事等をこれ以上増やすことは逆効果な気もしている。大変な行事が嫌で地区を出ていく人もいると思う。そのため、もっと小規模で「みんなで楽しめる何か」がないのかと、ずっと考えているのだが思いつかない。ただ参考資料2に記載されている「自転車に特化した公園や自然を活用した迷路のある公園をつくる」「高土区内にランニングコースや散歩コースをつくる」とのアイデアは、可能か不可能かは別にして、今のコロナ渦の中でもよいのではないかと思った。

【青木会長】

自分も環境さえよければ、いつでも動いてみたいという感じはする。だが、そのような環境がないということが1つの大きなポイントだとも思う。また、区内で大行事を立派に行ってきたが、それだけやっているのであれば大丈夫ではないかという感じがあるのかもしれない。「高土地区はよくやっている」と言われているかもしれないが、実態は数人が大変な汗水を流して行っているということが現状のように思えて仕方がない。それをサポートするというか、バックアップする体制づくりが大事であり、それをするためにはやはり人が集まって話し合う機会が必要だと何度も話が出てきている。そういった機会をどのように作るのかということが大事なことであり、ぜひやっていくべきことだと思っている。その1つとして、例えば、旧高土中学校跡地を何かにし、人が集まる場とすることもよいと思う。

【日向副会長】

自分も前期の4年間、地域協議会に参加したが、結局結論が出ないままに「こんなことをやってみたい」「あんなことをやってみたい」との想像ばかりがどんどん膨らんでいった。

実は懇談会をやってはみたものの、結局、若い人がなかなか意見を言えずにいることもあり、若い人同士・年配の人同士で集めて意見交換をしたほうがよいのかと悩んだ時期も正直あった。

そんな中、自分の中では旧高士中学校跡地を高士地区の中心にできないものかと、正直ずっと思っている。極端な話、体育大会も高士小学校のグラウンドではなく、高士中学校で行っていた時代があったようであるため、今度はそこに拠点を持っていけないものかと思った。だが、体育館も古いため使用できず、トイレ等も必要である。高士区地域協議会の自主的審議で「このように活用したいため、早く建物を取り壊してほしい」との方向で市に話を持っていきたいという気持ちもある。だが今後、どのようにして自主的審議を進めていくのかについては、自分の中でもまだ悩んでいる。

委員からの貴重な意見をまとめて、今後進めていければと思っている。今年で結論を決めるのではなく、まだ残りの任期は3年間ある。その中で1つ、何かをクリアしたいと思っている。

【高橋副会長】

これまでの委員の意見を聞いていて、自分の頭の中とイコールになったことは井澤委員の発言である。

先ほどランニングコースや散策コースの話があったが、以前に、他の地域もあったかは記憶していないが、「高士区内の散歩コースを何キロ歩くと、何カロリー消費され健康によい」とのコースが紹介されていた何かがあったように思う。そういったことを踏まえて思ったことが、今はあまり活用されていない高士スポーツ広場を中心として、散歩コースを作ってもよいと思う。

また公民館事業で、高士区内の絶景ポイントが紹介されている。どこの場所で素晴らしい景観が見えるといったことが、季節ごとにまとめられて紹介されているものがある。それを一緒にうまく活用して、コースづくりをすればよいのではないかと思っている。また高士スポーツ広場も何とかできないものかと思っている。

【樋口委員】

あれもこれもとたくさんあり過ぎて難しい。

高士スポーツ広場というか、高士中学校については、自分は卒業生であり、中学の3年間だけではあるがすごく思い入れがある。すでに校舎が壊された部分もあり、少し寂しい思いもした。高士スポーツ広場もだんだんと使用されなくなってきており、壊す壊すと言われていることが、なんだかすごく寂しい気がする。そのため、もう少し何かできればと以前より考えていた。

【田中委員】

これまであった行事以外の新しい事業という、なかなか大変ではないかと思う。地区で行事を行っていても、自分自身、これまで参加してきたものは運動会のみであり、ほとんどは参加できていないような状態である。そのため、これから新しく事業等を作っても、難しいように思う。逆に今ある事業を、何とかしてもう少し地域住民が参加してくれるような行事にしていくことが1番よいのではないかと考えている。

その他では、やはり「少子化」が問題だと思う。家でも今後は誰が子どもの送り迎えをすればよいのかという状態になっている。自分たちが子どもの頃は、子どもたちが集まって登下校していたが、今は各町内に子どもが1人いるかいないかという状況であるため、必ず大人が送り迎えをしなければいけない状態になっている。このような状況が続くと、尚更若い人が住みにくい環境になる。今の時代、子どもに勝手に学校に行けと言うわけにはいかない時代になってきている。やはり、そういったことも考えていかなければいけないと思う。保育園は昔、通園バスがあったのだが、現在はない。小学校も低学年は1人ではまだ登下校できない。そうすると、朝は送って行き、帰りも迎えに行かなければならない。朝はまだ時間が決まっているためよいのだが、帰りは時間が不規則である。子どもの送り迎えを行う大人がいる家庭はよいのだが、いない家庭は大変だと思う。そういったことも解決していかなければ、なかなか住みやすくはならないように思う。

【杉田委員】

イベントはイベントとして、伝統的なものは伝統的なものとして残していくことは大変よいと思う。だが、それ以外のものとして、イベントに固執することもよくないと思っている。もっと内面的なものも必要かと思う。また、仮にイベントを計画しても実行する人たち自身が楽しくなければ、全体が楽しいものにはならない。結構負担がかかるため、計画を立てる段階等で役員たちはかなり苦勞していると思う。計画の段階から、本当は楽しくなければいけないと思うため、もう少し工夫が必要かと思っ

ている。負担が多いということは、後継者が育ちにくいようにも思う。また内面的なところについては、日常の暮らしの中でやっていけることを何か考えていかなければいけないと思う。普段の生活の中でもやれることはあるのではないかと考えている。このあたりも考えていきたいと思う。

【松山委員】

高士スポーツ広場の話が出ていたが、高士中学校がなくなったのは昭和63年だったと思うため、その後の人たちはあの場所に中学校があったということを知らない人もいると思う。私はスポーツ広場の活用よりも、あの建物が危ないと言っただけであったが、参考資料の中に「廃止になる前に記念事業を実施したい」という意見があるため、それを今回取り上げていってはどうかと思った。地域の団体はたくさんあるため、プランナーとなる人は必ずいると思う。今、区内の団体を取りまとめている組織はあるのか。

【青木会長】

振興協議会である。

【松山委員】

誰が、どこにいて、どういう組織で、どういう規約があってというところまで取りまとめているのか。先ほどいろいろな団体がバラバラで動いているという話もあったが、横の繋がりが取れていないのではないかとと思う。

【青木会長】

旧高士中学校跡地については、現状では何か動いているわけではなく、夏場の草刈をいかにやるかくらいのものである。今後、具体的な活用という段階になった際には、しっかりと組織を作り、分担をしっかりと決めて、行っていかなければいけないということであり、そういうふうにしていこうという意見が多かったと思った。

【松山委員】

先ほども話があったが、いろいろな団体があるが、全体を押さえている組織はいないということだと思う。普通、組織や団体は皆そういうものだが、それでもしっかり押さえてあげれば、かなりのことができると思う。自分が以前から言っているのは、高士小学校区青少年育成協議会という歴史ある団体がいるため、そこを中心に何かできないかと思っている。自分もその会員で会議等に出席することがあるが、いいメンバーが揃っている。だから自分が言いたいこととしては、例えば参考資料にあるよう

な記念事業として、先ほども話が出た地区の体育大会を、スポーツ広場でやってもよいと思う。昭和63年以前からここにいた人は分かるが、その後の人たちは中学校があったこと等を全然知らないわけである。だからそれをどうやってアピールしていくのか。それには、多くの人がよく読んでいる地区の高士だよりがあるため、それを活用して、いろいろなことを発信していったらよいと思った。

【青木会長】

貴重な意見ではあるのだが、旧高士中学校跡地で、例えば体育大会を行おうと思っても、トイレはなく休む場所もないため、すぐに立ち上がりそうもない。そのため、先ほど日向副会長より意見があったように、旧高士中学校跡地をどのように考えてどのように利用していきたいのか、それにはこうしてもらいたいといったことを、具体的には予算の裏付けや、まずは体育館を壊してもらえないと困るというようなことを組織立ってというか、ステップバイステップで進めていく。そういうふうにしていかないと、前へ進まないと思う。今までもいろいろな案が出たが、いくつか的を絞ってそれを具体的にしていきたい。

【松山委員】

建物を壊さなければ何もできない。

【青木会長】

そういうことになると思う。

本日出された意見を簡単にまとめる。いろいろな意見が出たが、多数意見の1つとしては、「旧高士中学校跡地をどうしたらよいのか」ということである。放っておく手はない、高士の財産といった意見があった。また、いろいろな「高士地区の行事」についてである。他の地域ではなかなかやれていない行事等が、しっかりとやれているということで、それは継続・継承していくべきとの意見があった。さらに上辺だけではなく、人的な繋がりといったものを含め、伝統の継承は進めていかなければならぬとの意見があった。これらをまとめて、例えば旧高士中学校跡地に絞ったとしても、すぐにどうにかなる問題ではないように思っている。

今後どうしたらよいか、意見等あるか。

(発言なし)

事務局に補足等求める。

【本間センター長】

青木会長が発言したように、今この場で意見をまとめることは、事務局としても非常に難しい。そのため一旦時間を置きたいと思う。ポイントとなるところがいくつかあったため、それらを改めて再整理させていただき、次回の協議会で示すこととしてよければ、そのように進めたいと思う。

【青木会長】

任期はまだ3年あるため、多少の時間は気にせず、しっかりと的を絞って、全員が一致した考えとして課題を決めていきたいと思っている。そういう方向にすべきだと思うがよいか。

【松山委員】

前期から引き継いだこの課題等を今期できちんとまとめていきたい。

【青木会長】

以上で「2) 今後の進め方について」を終了する。

次に「3) 年間スケジュールの確認」について、事務局に説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料2 基づき説明

【青木会長】

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 自主的審議について」の「3) 年間スケジュールについて」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：12月17日（木） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・内容（案）：自主的審議について

【日向副会長】

- ・閉会の挨拶

【青木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。